

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 小林 祖承
〒520-0113大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和4(2022)年11月1日 火曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



東国巡錫に思いを馳せて 群馬教区



宗祖伝教大師と群馬県との縁は深く、今から1205年——前の弘仁8年(817)、東国巡錫の折りに法華経を講説

群馬教区(三浦祐俊宗務所長)は10月4日、比叡山延暦寺根本中堂で伝教大師一千二百年大遠忌報恩法要を奉修した。報恩感謝を捧げ、群馬県が東国巡錫の地であることを広く周知し、後世に御事蹟を伝える決意を宝前で誓った。

伝教大師一千二百年大遠忌報恩法要

され、国土と人心を鎮めるために法華経を収めた六所宝塔を建立された。その地には浄法寺(藤岡市)があり、境内には相輪標と、教区が平成2年に建立した高さ7mの伝教大師巡錫之像から、東国巡錫のお姿を偲ぶことができる。

群馬教区では、2020年10月、檀信徒含め約240人規模の延暦寺での大遠忌法要を予定したがコロナ禍により延期。翌年も7月に計画したが感染者数増加により断念せざるを得ず、実に2年越しに法要を実現させた。

法要は、感染防止の観点から出仕僧侶と随喜者は伝道師のみとした計40人が参加。天台宗と延暦寺の役員出席のもと、午後2時半に導師の三浦宗務所長と出仕僧らが延暦寺会館から根本中堂まで練り歩いて入堂。伝教大師和讃を参列者全員で唱え宗祖のご遺徳を偲んだ。

法要後には、根本中堂内陣莊嚴費を水尾寂芳延暦寺執行に贈呈した。(写真下)

阿部昌宏天台宗宗務総長は「21世紀は心の時代と言われる。一人ひとりが生まれながらに持つ仏性に目覚め、いのちの大切さに気付く、他の幸せを願う心が沸き起これば自他共に真に安らかな光に包まれる。『忘己利他』、『隅を照らす』の旗印を高く掲げ、生きとし生けるものすべてが安寧と調和を保ち、平和と安



寧を享受する法華一乗の社会、浄仏国土建設の実現に向け共に邁進してまいりたい」と呼び掛けた。また水尾延暦寺執行は「宗祖への報恩、恩返しとして与えられた一隅は何なのか、何を次の世代に引き継ぐのか今一度考えたい。群馬教区の率先垂範の行動に期待申し上げます」と感謝を述べた。

三浦宗務所長は「心を新たに、お大師様のご遺徳を偲び、報恩感謝の心を込めて日々を過ごしてもらいたい。そして、お大師様は群馬に来られましたよ、浄法寺様には大きく伝えて参りたい」と感無量の様子で挨拶した。
なお10月3日から5日にかけて第47回伝道師補任祖山研修会も実施した。

極微

この夏も酷暑に見舞われた日々であった。ここ数年の夏は異常ともいえる温度で、ひどいときは摂氏40度近い暑さを記録している。コロナ禍でマスクが外せないということもあってか、余計に身体にこたえるものだった▼身体に変調をきたしても、これが熱中症によるものかコロナ感染による症状なのか、分からずやきもきした人も多かったであろう。コロナの感染も7波を越えて、8波が予想されている。WHOでは、そろそろ収束に向かうようなコメントを出したようだが、さてどうなるのか、まだまだ不安ではある▼さらには、サル痘などという耳慣れないウイルス感染症も国内感染が確認されている。これから感染状況がどうなっていくか分からないが、我々人間は今後もさらなる新型コロナウイルスに感染していくことだろう。人類は誕生してから、細菌やウイルスなど微生物と共生しながら命をつないでいき、互いに利用しながら共存を図ってきた歴史を持つ▼人間の身体の内面においても外部においても、たくさんの「常在菌」が住んでいる。その常在菌を排除するのではなくうまくつき合うことによって、人間は免疫系の進化を進めてきた。ウイルスとの関係もわかりである。これからの未知のウイルスが登場してくるだろうが、必ず共生の道をたどることを思い、冷静なる対応をとりた

ものである。